

宗像大社歌会
俳句作品集(三六)

藤沢 井上 玄洋
残雪の富士天をつく五月晴
香椎 坂次クニコ
大社守る宗像の子に大試験
大井 吉田 杏子
谷の怪こだま返りぬ青き踏
鐘崎 岩瀬 辰夫
境内の古木仰ぐや藤の花
福岡西 入江 柳江
鯉のほり雲低ければおまよ
かね
福岡 広渡 一寿軒
シルバークイ押しせる礎に初
夏の風

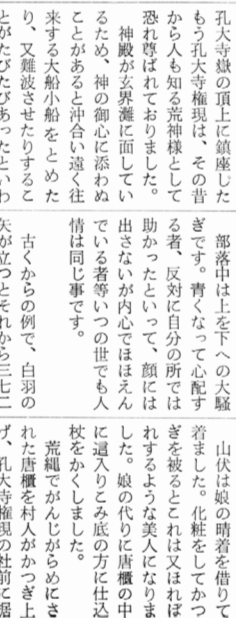
玄界沿岸地名探訪

(13)

いししいただし
・実際に歩いてみますと、古人達が居、感じたその体験が、地名となっていたことを感じます。
・その反面、古い姿がなくなり、それを求める手掛りのないような所も多くなっています。
・ブルドーザーによって造成され、削平されると共に、実は地名まで削り取ってしまったのが、現在の開発という印象を受けました。
・福岡市と北九州市の間に、はさまれた「宗像」は、ベツドタウンとして、ますます開発が進むことはまちがいないでしょう。
・宗像市の開発は、ひどい状態です。その開発と共に行われる埋立文化財

郡の地名についてお話をしていたいただきました。郷土史会や、地元の研究者もあつて、いろいろ集まって意見を出し合ひながら考えていくと、地名の持つ深さや、地名に関心を持たれ、それが地方史の大きな部分を占めている事を感じました。誰れでも気軽に話せる会を目指しています。
・金額だった地名研究会を作り、三月二十一日に発会式を行いました。
五月二十六日に、福岡市の諏訪神社(大光院福宮司)の社務所で、第一回の例会(おこない、地元、福岡、津屋崎、玄海町、宗像市、粕屋郡古賀、須恵町、福岡市)から、二十名が参加されました。当日は宗像大社の河津奈津子さんから「宗像

宗像郡四塚連山の最高峰、孔大寺権現の人身御供の事です。
部落中は上下への大騒ぎです。青くなって心配する者、反対に自分の所では助かったと、顔には出さないが内心ではほんのり得意な者、世でも人情は同じ事です。
古くからの例で、白羽の矢が立つとそれから三二七日の間に実行しなければなりません。部落の大庄屋が更けました。
下がるという下がるという、それまで静かだった孔大寺、嶽は一天俄にかきくも轟然たる雷鳴りをともなう大風になりました。その時、地響きと共に現れたのがありましたが、眼は血の様にららんと



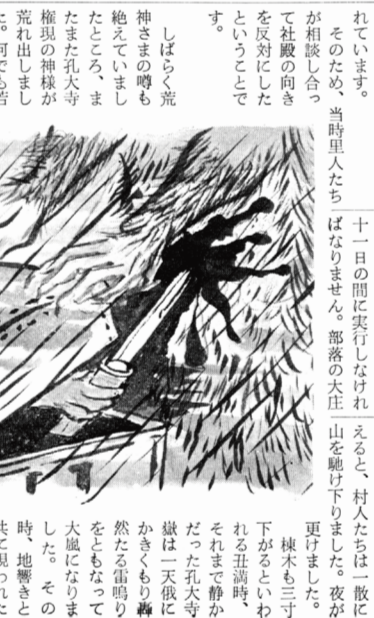
文化財を伝えていくには

前号で述べたように、「近」の墳墓が発見された、福年各地で博物館の総合施設として保存収蔵の他に、遺跡の修復保護をなし、展覧できるようなしる史跡公園を接し建設されてきた。これは見学観察によつて、多くの人々にこの地域の古代を理解し、その社会的環境を把握して、このようにして最近建設の総合博物館は、歴史研究に協力し、古代の状況をよりよく、又より広く伝えていくことが社会学の根底となり、学問研究の一助となつていくことが主体となつてきている。
五月二十五日に、一番新しい民間による文化財を守る会としての保護団体の誕生を見た。これは「王墓敷古」とみられて、「王墓敷

文化財についての考え

松子
ここに人はいない、まるで野球場が屋根におおわれ、中に入場しているように、二米の長方形の坑である。坑は東西方向に、いくつもつづいていく。出土した物体のほとんどは、陶製の武士俑で、秦軍の将兵の姿そのままである。どれも武に印象強く焼き付き、いま装した身長一七〇〜二〇〇センチの兵士と、実戦用そのま

宗像郡四塚連山の最高峰、孔大寺権現の人身御供の事です。
部落中は上下への大騒ぎです。青くなって心配する者、反対に自分の所では助かったと、顔には出さないが内心ではほんのり得意な者、世でも人情は同じ事です。
古くからの例で、白羽の矢が立つとそれから三二七日の間に実行しなければなりません。部落の大庄屋が更けました。
下がるという下がるという、それまで静かだった孔大寺、嶽は一天俄にかきくも轟然たる雷鳴りをともなう大風になりました。その時、地響きと共に現れたのがありましたが、眼は血の様にららんと



津屋崎 西住喜三郎
墳(つか)あまた皆茂みも
ち海見ゆる
田熊 安部 ゆき
五葉松小旗が招く南木市
田熊 力丸 一郎
野に葬(お)くり通夜の鐘
や窓の打つ

秦始皇兵马俑博物館
中国陝西省臨潼縣驪山の北麓に位置し、省都西安市(旧長安)から三十五軒のところにあり、北方は黄河の東に、南は渭水が関中平原を走り、拡大平野が広がる。省都西安は前漢時代以来長安

宗像郡四塚連山の最高峰、孔大寺権現の人身御供の事です。
部落中は上下への大騒ぎです。青くなって心配する者、反対に自分の所では助かったと、顔には出さないが内心ではほんのり得意な者、世でも人情は同じ事です。
古くからの例で、白羽の矢が立つとそれから三二七日の間に実行しなければなりません。部落の大庄屋が更けました。
下がるという下がるという、それまで静かだった孔大寺、嶽は一天俄にかきくも轟然たる雷鳴りをともなう大風になりました。その時、地響きと共に現れたのがありましたが、眼は血の様にららんと



毎月十五日発行 社会大像 宗像 定価 一年送料共 1000円

神具、装束 結婚式場用品 本社 九州店 福岡市博多区東公園二丁目二番

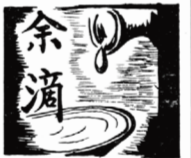
宗像大社第二宮・第三宮 十周年記念祭斎行



本年は宗像大社第二宮・第三宮が御造営されて十周年を迎えた。

たものである。十年の歳月を経た両宮御社殿は、あく洗いや金具の取替など、約一ヶ月間に亘る整備により、またも新にほほ造営時の美し、装いもすまいに再現された。樹々の新緑が五月二十日午前十一時、宗像大社第二宮・第三宮造営十周年記念祭を厳粛かつ盛大に斎行した。

昭和六十年度 夏越祭・大枝神事御案内 暑さも日毎に厳しさを増してまいりました。

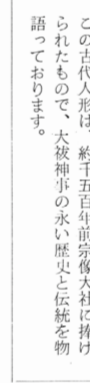


第二七回 宗像大社歌会詠草 大鳥 目原 節子 薄蕨する朝空を鴨の群高々と北へ飛びゆくが見ゆ

宗像大社人形について 宗像大社司 葦津嘉之 一、七月三十一日 午後五時、大枝神事、引続き夏越祭

宗像大社人形について 宗像大社司 葦津嘉之 一、七月三十一日 午後五時、大枝神事、引続き夏越祭

宗像大社人形について 宗像大社司 葦津嘉之 一、七月三十一日 午後五時、大枝神事、引続き夏越祭



この古代人形は、約千五百年前宗像大社に捧げられたもので、大枝神事の水い歴史と伝統を物語っております。

論 説

先口ある新聞社より、宮司に原稿執筆の依頼があった。平素考えておられることを何でもよから八百字以内で書いて貰いたいとの要請。

「新聞社より返却された 宮司の原稿」 木人思考は悪で、戦後の欧米型自由主義、個人主義が善である。との考えに

「新聞社より返却された 宮司の原稿」 木人思考は悪で、戦後の欧米型自由主義、個人主義が善である。との考えに

「新聞社より返却された 宮司の原稿」 木人思考は悪で、戦後の欧米型自由主義、個人主義が善である。との考えに

「戦後四十年の見直しを」 宗像大社司 葦津嘉之 対、道徳教育反対、家族制度反対、その上国旗、国歌までが反対と世界にも